

★3月の休館日：4日(月)、11日(月)、12日(火)、18日(月)、25日(月)



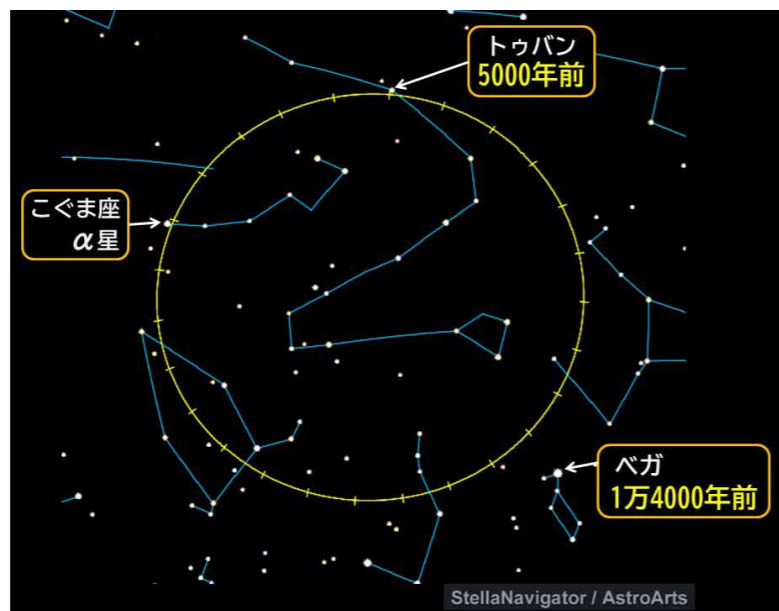
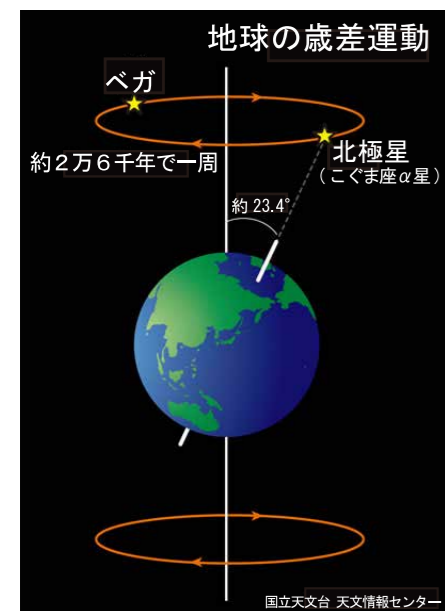
プラネタリウム番組のご案内

3月の一般投影 北極星の今昔

「北極星」はこぐま座のしっぽの先に位置し、こぐま座α星と呼ばれています。この星は、いつも北の空に輝いています。北極星は、地球の自転軸を北にずっと伸ばした天の北極の方向にあります。日本では「北のひとつ星」や「しんぼし(芯星)」、「ねのほし(子の星)」などと呼ばれ、昔の船乗り達にとって北の方角を知る大切な星とされていました。現代の私たちにとっても、方角を知ることができる便利な星です。

実は、北極星は、天の北極から少しずれた所に位置しています。北の空を一晩中撮影すると、北極星も周りの星達と同様に円の軌跡を描きます。つまり、北極星もわずかながら動いているのです。

ところで、地球の自転軸は、公転面に垂直な軸に対して約23.4度傾いています。自転軸は傾きの角度はそのままに、太陽や月の引力などの影響でコマの首振り運動のように長い年月をかけて少しずつ向きを変えます。このことを「歳差運動」と言います。歳差運動の周期は約2万6千年です。そして、自転軸の変化に伴い、天の北極の位置も変化します。長い年月



が経つにつれて、北極星の役割をする星は代わります。星座が作られ始めたりピラミッドが作られたりした約5千年前はりゅう座α星(トゥバン)、約1万4千年前にはこと座α星(ベガ)が北極星でした。今月は、北極星の今昔についてお話しします。

キッズプラネタリウム

★幼児や小学校低学年を対象とした子ども向けプラネタリウムです。土日祝および春休み(3/23~4/7)の11:10~14:30~

こども天文教室

★小学4年生以上を対象に、テーマごとの天文の話題を少し詳しく解説するプラネタリウムです。どなたでもご参加いただけます。

★3/16(土)★ 9:50~ テーマ：南十字をたずねて

はるのほしぞらめぐり ☆3/2(土)~4/14(日)☆

軌道星隊シゴセンジャー(春場所) ※事前申込制

☆3/23(土)・3/24(日)☆ 11:10~

星と音楽のプラネタリウム ※事前申込制

★素敵な生の音楽とともに星空をお楽しみいただく特別投影です。☆3/9(土)★ 13:10~ <出演> Lian(門脇理歩・ボーカル 北川朝美・ピアノ)

4月の一般投影 北斗七星で星空入門

これから星空の観察を始めたい、と思う方におすすめなのが「北斗七星」です。4月から5月頃の午後8時頃、日が暮れて空が暗くなってきたら北の空を見上げてみましょう。フライパンのような形を見つけることができます。北斗七星からスタートする星空の楽しみ方についてお話しします。

特別展のご案内

~4/7(日)

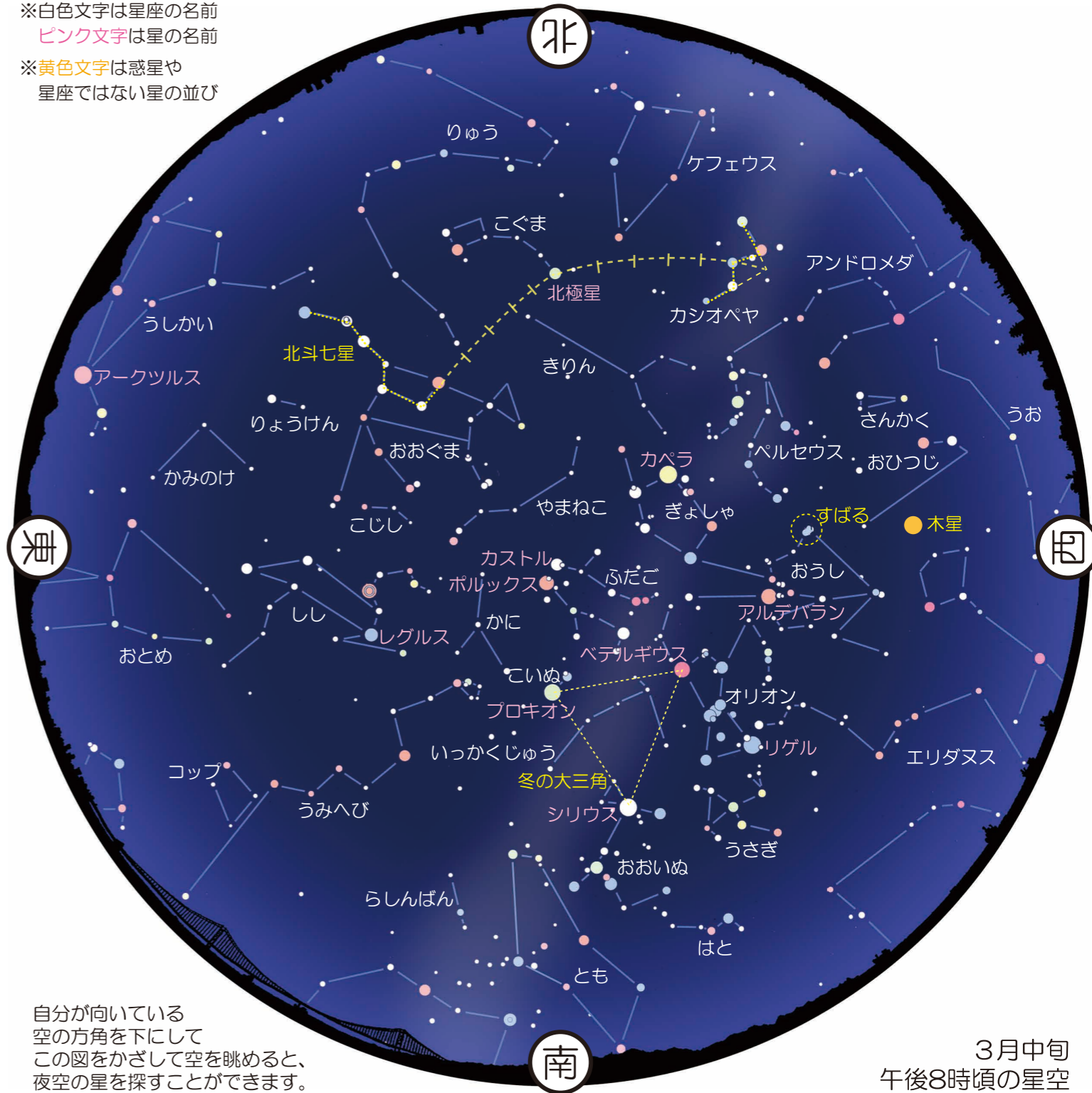
太陽系のお天気展

太陽系には8個の惑星があり、その環境はそれぞれ異なります。それぞれの惑星のお天気を比べてみます。また、太陽の活動と関係の深い宇宙天気についても紹介します。



Courtesy of NASA/SDO and the AIA, EVE, and HMI science teams.

※白色文字は星座の名前
ピンク文字は星の名前
※黄色文字は惑星や星座ではない星の並び



自分が向いている空の方角を下にしてこの図をかざして空を眺めると、夜空の星を探ることができます。

3月中旬 午後8時頃の星空

日没後、西の空に木星(-2等級)が明るく輝いています。3月14日には、月齢4の月と並んで輝きます。

北東の空には、7つの星がひしゃくの形に並んだ北斗七星が見えています。ひしゃくの水を汲む部分の端の2つの星を、水がこぼれる方へ図のように伸ばすと、北極星が見つかります。

南から西の空にかけて、冬の大三角やオリオン座など、明るい冬の星たちが輝いています。オリオン座には、赤っぽく輝くベテルギウスと青白く輝くリゲルの2つの1等星が輝き、色の違いを楽しむことができます。

3月の月の暦

- 4日 下弦
- 10日 朔(新月)
- 17日 上弦
- 25日 望(満月)

3月の天文現象

- 5日 啓蟄
- 8日 月と金星が並び(明け方)
- 14日 月と木星が並び
- 17日 海王星が合
- 20日 春分
- 25日 水星が東方最大離角

4月の天文現象

- 4日 清明
- 9日 北米で皆既日食(日本では見られない)
- 10日 月と木星が並び
- 19日 穀雨
- 22日 こと座流星群が極大

3月の日の出・入(明石)

日	日の出	日の入
1日	6:29	17:56
15日	6:11	18:08
30日	5:50	18:20